

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2590100372		
法人名	医療法人社団 洛和会		
事業所名	洛和グループホーム瀬田 (1階)		
所在地	〒520-2141 滋賀県大津市大江3丁目6番5号		
自己評価作成日	平成30年8月15日	評価結果市町村受理日	平成30年12月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/25/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2590100372-00&amp;PrefCd=25&amp;VersionCd=022">http://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/25/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2590100372-00&amp;PrefCd=25&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成30年10月12日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

日々の暮らしでは、利用者様と食事作りをしたり一緒にベランダに出て洗濯物を干したりご利用者さまの持っている力を発揮できる場を作り、やりがいや達成感を感じて頂ける様に努めています。また、毎朝散歩を行う時間を設け町内をまわり花を見たりして楽しみながら下肢筋力の低下予防をするとともに散歩中に出会った地域の方々には挨拶をして地域との関わりをもてるように努めております。月に一度希望されるご利用者を対象に職員と共にゆくりドライブして喫茶店に行く時間を作り外出の楽しみを味わってもらっています。室内の飾り付けにもこだわっておりご利用者、職員と共に春夏秋冬にあった飾りをレクレーションとして作り室内で四季を感じて頂ける様に飾り付けを行っております。しんらいしい、じぶんらしく、みんないきいき楽しい我が家(しみ)をモットーに、地域で職員と利用者が共に暮らす我が家を目指し、毎月の行事や日々の散歩、地域の交流会に参加し地域の方と話す機会を出るだけ持てるようにしています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

当該ホームは利用者がその人らしくいきいきと楽しく暮らせるような支援を大切に考え、利用者を尊重しその人の視点や立場に立って理解しケアを行おうとするパーソンセンタードケアについての勉強会を行い日々の暮らしを支援し、利用者や家族、地域の方とも信頼し合える関係性の構築に向け取り組んでいます。管理者は職員が話しやすい雰囲気を作り質問に答えたり外出を増やしたい等の提案に対し業務改善に繋げる他、園芸や環境などの担当者からの提案もあり多くの意見をサービスの向上に活かしています。利用者は食事作りや掃除などのできる事に携わり力を発揮したり、個々の利用者が行きたい場所へ出かけられるよう計画を立て個別外出に繋げる等、利用者が楽しみながら暮らせるような支援に努めています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の引継ぎで理念の唱和を行い、その日の中でどの理念を実行するかを考えて、業務に取り組んでいる。	開設時に法人の理念の基ホーム独自の理念を作成し、職員の入職時に伝えたり玄関やリビングに掲示し浸透するようにしています。認知症についての勉強会を行う中で利用者がその人らしくいきいきと楽しく暮らせるような支援について考え、毎月振り返り理念の実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	体調や気候に考慮して散歩を行っている。地域の方々に挨拶したり声を掛けていただき顔なじみの関係が出来ている。また、自治会のふれあいサロンや運営推進会議などで情報交換を行っている。	自治会に加入し回覧板で地域の情報を得て3か月毎に行われるふれあいサロンに参加したり、ホームの行事案内を載せてもらっています。年に2回のキッズダンスの披露や音楽のボランティアの来訪があり、また洛和メディカルフェスティバルには多くの地域の方が来られ利用者は交流を楽しんでいます。また今年度は中学生の職場体験の受入れも予定しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	3月に自治会館で認知症サポーター講座を開催、7月には石山中学で共同開催したり、洛和会の他サービスと共にメディカルフェスティバスを年1回開催して事業所・認知症のことを知って貰った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域関係者に参加して頂き意見交換・イベントなどの情報交換を行い、地域との連携、サービス向上につなげている。身体拘束委員会も兼ねている。	会議は複数の家族や町内会会長、地域包括支援センター職員等の参加を得て隔月に開催しています。ホームから利用者の状況や行事、事故、研修等の報告を行い意見交換をしています。参加者から災害対策についての質問があり答えたり、センサーマットの使い方について説明する等身体拘束ゼロに向けての取り組みも伝えるなど有意義な会議となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターから運営推進会議に参加していただき、その他でも情報の共有や相談をしている。行政主催の研修には勤務を調整し参加。	介護保険制度について等不明点等があれば法人の担当者が行政の窓口に行き、手続きなどで管理者が窓口に行った際にわからないことを聞くこともあります。また行政主催の研修の案内が来た時には、できる限り参加しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人単位での研修を受けている。それを各事業所に持ち帰りカンファレンスや口頭で話し合う時間を持っている。	身体拘束についての研修をホームで年に2回、法人の現任研修の中でも行っており、研修に参加できない職員には資料を回覧し周知しています。日中玄関やフロア入り口の鍵は掛けず見守り、外に行きたい様子や希望があれば出かけるようにしています。言葉による行動の制止にも注意を払い、理由やどのくらい待たせるかを伝える等拘束感を感じないような言葉のかけ方を工夫しています。	

洛和グループホーム瀬田（1階）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人単位での研修を受けている。できる限り職員全員に一年に一回は参加を促し参加できないときは事業所で伝達研修を行っている。防犯・安全の面からドアベルは使用しているが、玄関も夜間の防犯の目的以外で施錠していない。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人単位での研修を受けている。それを各事業所に持ち帰りカンファレンスや口頭で話し合う時間を持っている。 また成年後見制度を利用されている方もいるため成年後見人について学ぶ機会にもなっている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時・改定時に説明を行い、同意を得ている。その場や後日の質問や疑問点も同じ、不明確なところは上長に確認して対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置すると共に、定期的なアンケートを行っている。 また、家族様が来所された際、最近の状態を報告し要望や意見の聴取を行っている。	ホームの便りで利用者の様子を伝え、来訪時や電話をかけた時にコミュニケーションを図る中で意見や要望を聞いたり、満足度調査も年に1度行っています。意見を受けて散歩や運動レクリエーションを取り入れ筋力維持に力を入れたり、爪の汚れにも気を配るよう取り組むなどの改善に繋げる等、サービスの向上に活かしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月カンファレンスを行い各職員の意見を聞き取り、業務改善を行ったりし反映している。上官、管理者とも意見交換し職員の意見をまとめ相談できている。	毎日の申し送りでも多くの意見や提案が出されており、検討を要する案件に関しては毎月フロア会議で話し合っています。管理者やリーダーは職員とコミュニケーションを図り、質問に答えたり外出を増やしたい等の提案に対し業務改善に繋げています。年に2回の面談で職員の思いを聞いたり、園芸や環境などの担当者からの提案もあり多くの意見が運営に反映するよう取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度を活用し、年に2回の面談を行い、一定の力量があると評価された職員は手当が出ています。勤務状況は、偏りがないように注意している。年に一回のリフレッシュ休暇もある。今年度よりライフワークバランス休暇も出来るようになった。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加出来るように勤務を調整している。		

洛和グループホーム瀬田（1階）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等に参加し、交流の機会を持ち他事業所との関わり・意見交換を行っている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族様より情報を頂いたり、訪問した相談員からの情報を受けて基礎を作り、本人様が困っている様子を見かけたら出来るだけすばやく対応、日々困っている事がないか様子を見たり、声掛けを行い、変化に職員全員が気付けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時や、訪問時できるだけ本人様の情報をいただけるように声掛けをし、不安が軽減するように雑談も取り入れながら何でも話せる職員が居る、という認識を持っていただけるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様からの情報・医療からの情報を基礎にし、日々変化がみられるようなら記録に記入し、そのとき一番必要なことは何かをスタッフに気付けるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることはしてもらい、出来ないことなどの部分を助けるればできるようになるのかを念頭に持ち、お客様という立場ではなく共に暮らす仲間としての声掛けや対応をするようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員・家族様・医療がチームとなり、利用者様一人一人を支えていけるように、家族様の面会などで話す時間を持ち相談をしたりすることで、皆で支えあって生きていけるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会などで来ていただく際はプライバシーの観点からもキーパーソンに連絡確認を取っているが、概ね自由に面会していただいている。また馴染みの病院などには継続して受診している。	以前近くに住んでいた知人等が面会に来た時にはリビングでゆっくり過ごしてもらえるよう場所を提供しお茶を出しています。家族と自宅や墓参りに行ったり、実家に実母に会いに行く方や施設に入居中の配偶者に会いに行く方もおり、個々の馴染みの方や場所との関係継続に向けた支援をしています。また家族へ年賀状を出せるよう支援したり、家族の協力の年賀状の宛名書きをする方もいます。	

洛和グループホーム瀬田 (1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様だけにならない環境を作り関係が悪くなるようであれば職員がフォローに入ったり、気分転換にマンツーマンで散歩や買い物、会話をする時間を持っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても気軽に立ち寄ってもらえ、困ったときには相談が出来る事業所であるように、関係を作っている。 また、親族の困りごとを相談される事もあった。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族様の要望を聞いている。 日々の会話・表情から本人の思いや好みの把握に努めている。	入居前には自宅や病院、施設などに出向き利用者や家族と面談し、生活歴や趣味嗜好、希望、不安などの情報を聞いたり、直接家族にアセスメント用紙に記入してもらい思いの把握に努めています。入居後は利用者の言葉や表情、行動を記録に残し、カンファレンスで意思疎通の困難な方の言動などの情報を持ち寄り本人本位に検討し思いの把握に繋げています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	可能な限り家族様に以前の生活環境や生活歴本人の思いなどを聞かせて頂くようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状態の変化や関わった際の表情・感情など日々の様子を記録に残し、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の変化を職員同士で報告しあい、本人の思い、家族の思いを踏まえてカンファレンスを行いプランを立てている。家族様、時には本人様にもケアプランの説明を行っている。	アセスメントの基カンファレンスを開催し介護計画を作成し、入居後3か月、6か月、1年での見直しを基本に期間の中間で評価を行い変化があれば都度の見直しを行っています。見直しに当たっては本人や家族の意向や思い、主治医や看護師の意見を聞き書面に記し、再アセスメントを行ったうえでカンファレンスを開き話し合っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿って記録を行い、それ以外の気づきも日々の記録に残してプラン見直しに役立てている。		

洛和グループホーム瀬田（1階）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り個人の思いを尊重し、一人一人にあった支援を提供できるようにしている。御本人・ご家族の希望で訪問マッサージを利用している方もいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の自治会の催しに参加したり、地域の小学生ダンスサークルのボランティア受け入れ一緒におやつを食べるなど地域の子供達との交流を行っている。今年度より瀬田中学の職業体験で生徒を受け入れる予定をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望により、従来のかかりつけ医(往診・通院)や往診医などの御希望に沿うよう支援している。月に2回の往診を受けており専門医への受診へつないだり、入所時からの専門医受診も続けている。	入居時にかかりつけ医を継続できる事を伝え、継続している方は家族が付き添い受診しています。複数の往診医があり其々月2回往診を受け24時間連絡が取れる体制を整えています。専門医への受診は職員が同行し状況によっては家族も一緒に行くこともあります。週に1度訪問看護による健康管理を受け、歯科は週に1度の口腔ケアと月1回治療に来てもらっています。また希望により訪問マッサージを受けることができます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回看護師による健康管理をうけ、相談をしている。24時間連絡体制特変時も指示を仰げ、安心できる環境である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員と情報交換し、調整を図っている。職員が病院に赴きに本人の状態を確認、看護師、相談員にも状態を確認している。入院中のカンファレンスも日程調整し参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要性がみられた早い段階から医師、看護師、家族を交え話し合い、事業所で出来る事を説明し、ご本人、家族の思いを伺い医師からも現状を伝え、納得を得た上でチームとして支援を行うように努めている。	入居時に重度化や看取り支援についての指針にそってホームでできる支援について説明しています。食事が摂れなくなった時など医師に相談し、家族や看護師、職員と話し合いを持ち方針を決めて支援しています。また看取り支援についての研修を受けた職員がホームで伝達研修を行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各職員二年に一度普通救命の講習、更新を受け対応出来るようにしている。		

洛和グループホーム瀬田（1階）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヶ月に一度、防災について訓練を行い、避難などについて職員は周知している。 また、1年に2度の消防署との避難訓練の実施。備蓄として予備の食料やカセットコンロなどをそろえている。	2か月に1回災害に関する研修や訓練を行い、2回は法人の災害担当者が訓練計画を立て消防署立ち合いの下昼夜を想定し通報や初期消火、避難誘導の訓練を行っています。運営推進会議で地域の方に案内や報告を行っていますが、まだ参加が得られておらず次回は回覧板にて告知する予定としています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者本人、御家族が不快にならないような言葉使いを行うよう心がけている。申し送り時は、イニシャルを使用しプライバシー保護に配慮している。	接遇マナーについての研修を行い、ホームの目標としても掲げ毎月カンファレンスで振り返り話し合っています。認知症ケアの研修でも利用者の尊厳や人格の尊重等を伝えていきます。丁寧な対応を心がけ、呼び方も苗字で呼ぶことを基本とし利用者にとってわかりやすい旧姓や名前で呼ぶこともあり家族に説明しています。不適切な対応があれば、その場から離れた所で注意をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	洋服を用意するときは職員と一緒に選んだり、おやつ、食事、10時の飲み物や献立と一緒に決めたりと自己決定できるように二者選択で選びやすいように配慮し随時声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本意でケアを提供できるよう、その人がどのように過ごしたいのかを探り希望を発信できない方に関しては本人の様子・ご家族の意見を取り入れ対応出来る様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度訪問ヘアカットや、好みの服や化粧品など一緒に選んだり、買い物に行ったりしている。また、入浴時なども服を選び時間を作っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日にある材料から献立を一緒に決め、利用者と共に野菜きり・炒め物等テーブル上で作っている。食器拭きも、皆で分担しながら行っている。	食材は週に3回注文したものが届き週に1～2回は買い物に行っており、フロア毎に利用者の希望を聞きながら献立を立てています。台所に立って調理に携わる方もおり、野菜を切ったり米とぎ、盛り付けなどをしてもらいながら食事作りをし職員も一緒に食べています。寿司などの外食やピザや丼ぶり等の出前を取ったり、また善哉やホットケーキなどのおやつを手作りすることも利用者の楽しみとなっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量などは毎回チェック表で確認。水分が少ないかたは記録に記入し把握している。一人一人に適した食事量、食事形態、水分量を把握しながら提供している。食事量少ない方は往診医に相談し栄養補助食品を処方してもらい提供している。		

洛和グループホーム瀬田（1階）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科と連携しつつ、起床時や毎食後に口腔ケアの声掛けを行っている。歯科衛生士より助言等頂き口腔内の清潔保持している。自身で出来ない方はお手伝いさせていただき口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入所時から落ち着かれるまで、身体の変化があったときなどは表にしてパターンを掴んでいる。また、自力で排泄できないのはどこに障害があるのかなどミニカンファレンスや医療への相談を行っている。	排泄支援の必要な方はチェック表を付けパターンを把握し、個々のタイミングでトイレに行けるよう支援しています。カンファレンスや日々の支援の中で職員間で話し合い支援方法やパッドなどの排泄用品の選択について決めています。紙パンツから布の下着に変化したり、退院後は入院前の状況に戻れるように支援するなど、自立に向かうよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便間隔を把握し、野菜を取っていただく、乳製品をこまめにとる、体操を行う、マッサージを行う、水分補給をこまめにとる等自然排便が出来るよう試みている。どうしても出ない場合は医療へ相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2・3日に一回声かけを行い入浴している。その他希望があった際は対応出来る時は入っていただいている。ゆっくり入浴出来るように努めている。	入浴は週に2～3回を目安に午後の時間帯で支援し、希望に応じて回数を増やしたり午前中の中の入浴にも対応し、希望や状況によっては21時までの対応が可能です。一人ずつ湯を入れ替え、好みのシャンプー等を使用し希望により入浴剤を使用したり、歌の好きな方は歌を歌い楽しみながら入ってもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	概ね安眠されているが、どうしても眠れない場合は日中の状態・精神状態などを考慮し体を動かしてみてもどうかなどミニカンファレンスを行い、医療と連携しながら支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	いつでも利用者様が服薬している薬を知るこの出来るファイルを職員が使用するデスクに備え閲覧できるようにし、薬剤師や医療関係者にも聞きやすい環境が出来ている。薬ポケットを使用することで袋数などの把握が出来ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	会話の中で好みのものや食べ物・行きたい場所などを聞き出し提案したり、提供している。また、特定の役割を個人個人が持って生活している。		



洛和グループホーム瀬田（1階）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買い物に車や歩いて出掛けている。また、散歩や行事などで外へ出掛ける支援も行っている。職員の人員によりその日に必ずとはいけないのが現状だが、喫茶の希望等は個別で対応出来るように努めている。行事計画に個別ケアを企画し年に1回は好きなどころに出かけられるよう支援している。	気候や天気の良い日には毎日散歩に行くようにしており、ベランダに椅子を置き外気浴を行う等、外に行く機会を多く作っています。フロアごとに外出行事を企画し初詣や花見、紅葉狩りなどに出かけしています。個別外出にも力を入れ、個々の利用者が行きたい場所へ出かけられるよう計画を立て支援をしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は事務所にて預かり管理しているが、御家族様確認の元、ご自身で持っておられる方も居る。買い物を希望される方に関しては、自らレジにて支払いをしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望、必要に応じて対応させていただくように支援している。手紙・年賀状などの支援も希望に応じている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は利用者様にとって快適な温度・湿度に保ち、出来るだけ季節を感じていただけるような飾付けをリビング内に設けている。	共有空間は、利用者と一緒に作った季節を感じられる貼り絵や行事の写真を飾っています。フロアによってはテレビを2台置いたり、外を見る事が出来るようにソファを設置する等、利用者に合わせて家具を配置しています。トイレトーパーが上手く使えない利用者に合わせてチリ紙を置く等以前の習慣に合わせた配慮をしています。毎日換気や掃除を行い清潔を保ち、利用者の体感にも考慮しながら温湿度管理を行い居心地良い空間作りに努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合うメンバーで食事をしていただいたり、リビングの一部に外の景色をゆったり見られるような場所を設置しリラックスできるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は馴染みの家具、家族の写真なども飾られて居心地の良い空間を作っている。	入居時に使い慣れた物を持って来てもらうよう伝え、タンスや椅子、文机、棚、冷蔵庫等の持参したものを家族が配置し、生活の状況によっては本人や家族と相談し変更しています。趣味の俳句や水彩画の作品や人形を飾ったり、大切にしている仏壇に毎日お経を唱える方もおり、思い思いに過ごせる居室となっています。また褥瘡予防エアマットを使用している方がいたり、状況に応じてカーペットを敷き布団で休んでもらうことも可能です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで手すりも設置されている。廊下にもベンチを置き腰掛けられる用意もある。日にちや時間が把握出来る様にご利用者の見えるところにカレンダー、時計設置している。		